

平成27年度病害虫発生予報第2号

平成27年 5月 1日
愛 知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	県全域	前年の穂いもち発生量は平年並	±
	イネミズゾウムシ	平年並	県全域	前年6月下旬の本田発生量はやや少ない 前年の西三河及び東三河に設置した予察灯における誘殺数はやや多い	－ +
コムギ	うどんこ病	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い 5月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	赤かび病	平年並	県全域	4月下旬現在、オオムギでは発生を認めているが、コムギでは認めていない(平年並) 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
	赤さび病	やや多い	西三河地域	4月下旬の発生量はやや多い 5月の降水量はほぼ平年並	＋ ±

・防除対策

[コムギ・うどんこ病]

トップジンM水和剤、シルバキュアフロアブル、チルト乳剤25などで防除しましょう。

[コムギ・赤さび病]

シルバキュアフロアブル、ワークアップフロアブル、チルト乳剤25などで防除しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや少ない	県全域	3月の越年発病葉率はやや低い	－
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	3月上旬の発生量は平年並 5月の気温は高い	± +

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	4月上旬の花そう基部の発病率はやや高い 4月下旬の発病葉率はやや高い 5月の降水量はほぼ平年並	＋ ＋ ±
	アブラムシ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない 5月の気温は高い	－ ＋
モモ	黒星病	平年並	県全域	4月下旬の発病枝率は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
	せん孔細菌病	やや多い	県全域	前年秋の発生量は多い 4月下旬の発病枝率は平年並 4月20日に強風雨があった 5月の降水量はほぼ平年並	＋ ± ＋ ±
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	4月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	黒とう病	平年並	県全域	4月下旬現在、発生を認めていない（平年並） 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
	べと病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	やや少ない	県全域	前年秋の発生量はやや少ない 5月の降水量はほぼ平年並	－ ±
果樹共通	カメムシ類	やや少ない	県全域	越冬世代成虫の密度はやや低い	－

・防除対策

[ウンシュウミカン・ミカンハダニ]

コロマイト水和剤、マイトクリーン及びモレスタン水和剤などで防除しましょう。

[ナシ・黒星病]

発生部位は伝染源となるので取り除き、園外へ持ち出し処分しましょう。ファンタジスタ顆粒水和剤やベンレート水和剤などで防除しましょう。

[モモ・せん孔細菌病]

病斑のある枝は伝染源となるので取り除き、処分しましょう。ストマイ液剤20やマイコシールドなどで防除しましょう。収穫時期の早い品種は、収穫前日数に注意して農薬を選択して下さい。

・留意事項

カンキツやカキを加害するチャノキイロアザミウマの第1世代成虫の発生時期は、今後の気温が平年並に推移した場合、県内の平坦地では5月17日から23日と予測します。しかし1か月予報では高温が予想されており、若干早まる可能性があります。防除時期の参考になるよう5月中旬にチャノキイロアザミウマ情報を発表する予定です。

モモ黒星病は、前年発生が多かったほ場では、今後気象条件によっては発生量の増加が懸念されます。天候に留意して防除適期を逃さないように注意しましょう。

モモのカイガラムシ類の防除適期は、有効積算温度から計算すると前年より1日から3日早いと予測します。防除適期を逃さないように注意しましょう。詳細は、本日発表の「モモのカイガラムシ類情報第1号」を参照してください。

ブドウべと病は、一旦発生した後は降水量が多いと発生量が多くなります。本病に適用のあるQoI剤（アミスター10フロアブル、ストロビードライフロアブル及びホライズンドライフロアブル）に対して県内では耐性菌の発生が確認されており、現在は感受性菌と耐性菌が混在している状況です。耐性菌の比率を高めないためにQoI剤をべと病防除に使用することは控えましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
トマト (施設)	黄化葉巻病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない	－
	灰色かび病	多い	県全域	4月下旬の発生量は多い	+
	ハダニ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	少ない	県全域	4月下旬の発生量は少ない	－
キュウリ (施設)	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

〔ナス（施設）・灰色かび病〕

発病果は取り除き、ほ場外に持ち出して適切に処分しましょう。ファンタジスタ顆粒水和剤やピクシオDFなどで防除しましょう。

・留意事項

果菜類で天敵や訪花昆虫を導入しているほ場では、それらへの薬剤の影響に注意して農薬を選定してください。

キュウリでは、ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（病原：MYSV）、トマトでは、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（病原：TYLCV）が多発しているほ場がみられます。発生ほ場では次作への病害の伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

キャベツにおけるコナガの4月下旬の発生量は、前年より少ない状況ですが、今後、平年より気温は高く、コナガの発生に好適な条件が見込まれます。発生が見られる場合は同一系統の薬剤を連用しないよう、早めに防除しましょう。また、周辺ほ場でのコナガの発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、親株床で白さび病が多いほ場があります。発病葉を早めに除去するとともに、系統の異なる農薬でローテーション散布をしましょう。

今後はハダニ類やアザミウマ類が増加する時期になります。本ぽと親株床を含めた防除に努めましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台4月30日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に、鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。